

年頭所感



PC 建築部会長

八田 英治

大成ユーレック株式会社 取締役

2016 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には平素よりプレハブ建築協会及び PC 建築部会活動に多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年のわが国経済は、中国を始めとする新興国の景気減速の影響により、輸出や生産面の一部に鈍い動きが見られましたが、企業収益に改善が見られ、雇用や所得環境の改善が進み、設備投資も増加するなど、緩やかな回復基調が続きました。

建設業界におきましては、公共投資が減少に転じているものの、堅調な企業収益に支えられ投資マインドが改善してきたことにより、製造業・非製造業ともに旺盛な投資が見られ、全体として堅調に推移しました。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックまでに竣工を目指す多くのプロジェクトが着工を控え、リニア中央新幹線も本格的に着工するなど、建設業界は活況の度合いを強めております。一方、昨年発覚した杭工事の施工に伴う問題は、建設業が従来から抱える重層下請構造に対して、課題を突き付けられた格好となりました。業界全体として取り組んで、信頼をいち早く回復していかなければなりません。

今年の 3 月で、東日本大震災からはや 5 年が経過します。建築・土木の各方面から更なるプレキャストコンクリート（PC）の採用が検討されている中、福島県いわき市に於いては、いち早く PC 工法が採用されて一級建築士事務所（一社）プレハブ建築協会が設計及び監理を受託し、PC 建築部会が連携して取り組んで参りました。おかげさまでその災害公営住宅も昨年末にはほとんど引き渡しが進みました。その中でも、採用していただいた PC 工法に対しましては、大変ありがたいことに御関係の皆様からも高い評価をいただいております。

今後もまだ災害復興住宅の建設が続きますが、現地での資機材不足や人手不足は相変わらず続いており、これを補うために PC 工法は数多くの工事で採用されております。また、UR 都市機構が実施する災害公営住宅の整備においても、PC 建築部会で行っている PC 構造審査委員会で審査された物件が、昨年までに 13 件、40 棟、1415 戸になりました。これからも各方面と連携して、できるだけ早く多くの方に安全で快適な建物に入居していただけるように対応して参ります。

また、PC 建築部会で 3 年前より実施しております JASS10 の改定に伴う技術指針の改定についてですが、2014 年に発刊した「プレキャスト鉄筋コンクリート工事施工技術指針」に続き、およそ 2 年をかけて独自で行ってきた各種実験結果を元にした「(仮)プレキャスト鉄筋コンクリート部材

製造技術指針」を本年 8 月頃に発刊できる見通しとなって参りました。これに伴い次回の PC 部材品質認定制度に基づく PC 工場の定期審査から新基準での審査となります。色々ご協力をいただきました各方面の皆様には心より感謝いたしております。

建設業界の持てる技術やノウハウを集結し、これからも PC 建築のさらなる発展を目指して活動して参りますので、皆様の格別の御指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年一年の皆様方のご健康、ご多幸を心よりお祈りいたしまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。